



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                     |                                                                                                                                                                      |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title               | Questions of Immortality and Inquiring Mind in the Ghost Stories of Henry James and Edith Wharton [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review] |
| Author(s)           | 宮澤, 優樹                                                                                                                                                               |
| Degree Grantor      | 北海道大学                                                                                                                                                                |
| Degree Name         | 博士(文学)                                                                                                                                                               |
| Dissertation Number | 甲第13411号                                                                                                                                                             |
| Issue Date          | 2019-03-25                                                                                                                                                           |
| Doc URL             | <a href="https://hdl.handle.net/2115/74449">https://hdl.handle.net/2115/74449</a>                                                                                    |
| Rights(URL)         | <a href="https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/</a>                                                  |
| Type                | doctoral thesis                                                                                                                                                      |
| File Information    | Yuki_Miyazawa_abstract.pdf, 論文内容の要旨                                                                                                                                  |



# 学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名：宮澤 優樹

## 学位論文題名

Questions of Immortality and Inquiring Mind

in the Ghost Stories of Henry James and Edith Wharton

(ヘンリー・ジェイムズとイーディス・ウォートンの幽霊物語における  
不死をめぐる問いと探究心)

### ・本論文の観点と方法

本論文は、19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍した2名の作家を取り上げ、彼らの書いた幽霊を題材とする小説の特質を論じる。米国の知的階級を出自とする2名の作家ヘンリー・ジェイムズ（Henry James）とイーディス・ウォートン（Edith Wharton）は、幽霊を題材とする作品において、同時代の科学者や哲学者の形而上学的問いに対する取り組みを題材とし、そこから多くの着想を得ていると本研究は主張する。また、そのような着想が具体的にどのような展開を個々の作品で見せているかを考察している。

方法としては、ジェイムズやウォートンが直接、あるいは間接的に関係していた同時代の思想や科学的知識、関連する作家や作品と、両作家による作品との比較検討、および作品内部においてそのような背景がどのように取り入れられているかをバランスよく考察する手法をとっている。その際、ジェイムズとウォートンが目を通していたと思われる文献と、作品内の描写や表現との類似性、関連性を検討し、両作家のそうした資料に対する態度、さらにはそれらを利用する創作上の意図や効果を分析している。同時に、これまでの研究においてなされている作品の構造に関する主要な議論を踏まえつつ、上記の文化的背景を議論に含ませることにより、本論文において検討の対象となる作品群の特質を体系的に記述することを試みている。

### ・本論文の内容

本論文は6章から成り、主として作中において、ジェイムズとウォートンがいかに当時の学者・科学者たちに言及しているかを根拠としながら、当時の科学者らの探求が二人の作家が描く幽霊物語の大きな典拠になっていると主張している。とりわけ大きな影響として挙げられるのは、ヘンリー・ジェイムズの兄であったウィリアム・ジェイムズ（William James）であり、彼の思想にジェイムズとウォートンが関心を寄せていることを確認する。そのうえで本研究は、二人の作家の幽霊を題材とした小説には、そこから得られた知識と、それに対する批評的精神が織り込まれており、またそこには、新たに探求すべき課題として立ち現れ

た問題に対する探究心が描かれている点で、同時代の科学者らと同様の姿勢が含まれていると論じる。この点は、当時の宗教やスピリチュアリズムについて考察する先行研究を通して確認される。さらに、そのような探究心によって物語が駆動されている点に、ジェイムズとウォートンの幽霊物語の特質が見られると結論する。

第1章は、二人の作家より前の時代、すなわち19世紀半ば代表する作家であるナサニエル・ホーソーン（Nathaniel Hawthorne）の幽霊を扱ったエッセイ “The Ghost of Doctor Harris” を扱う。同作品の中でホーソーンは、幽霊を自明の存在とし、そして日常生活の継続として捉え、次代の作家のような幽霊を観察や吟味の対象とする視点を導入していないと本章は指摘する。同様の姿勢は、ジェイムズの *The Turn of the Screw* に影響を与えた作品としてしばしば指摘される小品 “The Wives of the Dead” にも見られることが本章において指摘され、次章以降で取り扱われる作品との差異が強調されている。

第2章と第3章は、ウォートンの短編小説について検討する。第2章は短編 “Miss Mary Pask” を扱い、語り手の立ち位置に着目しながら論じている。この短編作品は、画家である語り手がフランスの海岸で暮らす女性を訪問し、彼女を幽霊であると誤認する物語である。しかし、それが誤認であるという根拠は、同様の強度を持つ根拠により物語のある箇所では否定されており、読者の視点からすると、語り手の見る女性が幽霊であるか否かは判別できない仕掛けになっている。作中の風景描写が、風景画化である語り手の内面世界と同期していることを考慮すると、本作品における幽霊も、同様に語り手という視点を介して提示されているのみの存在であることがわかる。本章は、この点がホーソーンを書く幽霊との大きな相違であると結論する。第3章では、ウォートンによる3つの短編作品を読み、そのなかで言及される宗教やスピリチュアリズムを検討することで、ウォートンの形而上学的問題に対する見解を浮かび上がらせる。先行研究にはウォートンを宗教から距離を置いた作家とみなす立場と、スピリチュアルな作家とみなす立場が存在するが、ここでは後者の立場からウォートンの作品を検討する。本章では主としてウィリアム・ジェイムズの考え方に対するウォートンの反応という観点から上記の問題が吟味され、表面的には反発しあっていた2人が、ウォートンの小説上では一定の同意を得ていることを確認する。

第4章から第6章では、ヘンリー・ジェイムズの代表的な幽霊物語が同様の観点から検討されている。第4章では、短編 “Sir Edmund Orme” を読み解き、「心霊研究」と呼ばれる運動で知られるエドモンド・ガーニー（Edmund Gurney）が本作の土台であると指摘する。本章では、作中の人間と幽霊との対比に着目し、そこにガーニーの行った研究の痕跡を認め、ジェイムズがガーニーらの活動を幽霊物語執筆に関する題材としていた根拠とする。第5章は、短編 “Owen Wingrave” における形而上学的問題への取り組みとして、不死を論じたソクラテスと、同時代の作家アーサー・コナン・ドイル（Arthur Conan Doyle）への作中における言及を通して分析する。ここでは、結末における他殺によるものと思われる死体の解釈をめぐり、そこに見られる曖昧さが、不死をめぐる問いの曖昧さと直結していることが指摘される。第6章では、*The Turn of the Screw* が、エドモンド・ウィルソンやショシヤナ・フェル

マンによる主要な先行研究を土台としながら、ここまでの議論で見出された論点から分析される。本章は、本作品が“Owen Wingrave”で見られたような解釈を要求する謎かけの連続により構成されており、読者が積極的にそこへ介入するよう誘う作品構成になっていると主張している。

結論部では、ジェイムズとウォートンの幽霊や不死に関連するエッセイを引用しながらこれまでの議論が要約され、さらに、その議論がジェイムズとウォートンによるそのほかの主要な作品の解釈に寄与する可能性が示唆される。これに加え、ジェイムズとウォートンの幽霊物語は、総じて不死をめぐる問いへの探究心に根ざして書かれた小説群であると解して閉じられている。